

福地金属(株)は冷間鍛造によって自動車部品の加工前素材を作る会社です。父親が昭和36年に住まいの横の6坪のスペースで創業。冷間鍛造の技術で創業55年を迎えます。鉄を加工する場合、熱して柔らかくしてプレスするのが通常ですが、常温でプレスするのが冷間鍛造です。熱くして加工したものは冷却後の収縮が生じますが、常温で加工するため、収縮がなく精度の高い部品を作ることができます。専務として、社長として汗まみれになりながら鉄を鍛ってきた福地社長に福地金属(株)の魅力と幸福な生活の実現のために社員とどのように向き合ってきたのか。



福地金属(株)  
代表取締役  
福地 守氏  
(平野支部)

バブル崩壊から、今までをインタビューしました。



金型製造機



製品



製品ビフォーアフター

### ●経営者の勉強の場

冷間鍛造の技術に支えられ、福地金属は右肩上がりの成長を遂げました。福地社長は来る日も来る日も鉄を鍛ち、仕事をこなし、一人で会社を背負っている思いでいました。社員は自分の指示に従ってくれさえすればミスもなくうまくいくと思い込んでいました。仕事は「まだするの」というくらいどんどん受注がありました。

ところが、バブル崩壊で仕事が激減。「いい時に廃業するか」という父親の考えもありましたが「俺にできることは冷間鍛造しかない」と飛び込み営業に駆け回りました。しかし結果は伴いません。そんな先行き不安の中で、異業種交流会のファックスを見ました。早速、異業種交流会に参加しましたが、仕事にはつながりません。その異業種交流会で偶然同友会会員の方と出会い、例会にゲストとして参加しました。参加してみると「経営者が経営の勉強をする」ということを知りました。福地社長は日常業務が経営なのだから、毎日経営をしている。経営を勉強というのは「経営学」を学ぶことであり、それは大学生の勉強だと考えていました。

### ●セミナー受講

同友会に入会して3年目。指針セミナーに参加したのですが「何で経営しているの？」と聞かれて、その質問の意味がわからず、「単に家が商売していたからじゃないの？ 生きている人に『何で息をしているの？』と聞くのと同じだ」と感じました。ただ「何で」の問いかけの繰り返し、初めて自分のこと、会社のことに目を向けるきっかけになりました。父は自分の家族を養うために会社を始めたのだろう。それなら私は自分の家族や社員の家族までを養うために頑張ろう。そうすると会社も成長するし、自分たちの存在価値も上がると気づきました。

セミナー後、会社に戻るとさっそく社員に慰安旅行を取りやめ、社員研修をすることを宣言しました。そうすると皆に反発され、父親にも「機嫌よく慰安旅行連れて行ったら」と、言われて寂しい思いをしました。ある日、焦りの中「このままじゃあかん。成長しないとあかん」と社員に言う「この会社、このままではあかんなら、ほか行きます」とやめられてしまいました。私はせっかくのセミナーの学びを、どのように会社に持ち込んでいいのだろうか悩むばかりでした。

経営指針の作成や社員教育を同友会で学んだことを、そのまま取り入れても明日から会社がよくなったり、社員が自主的に動いたりしません。その学びは自社で実践してアレンジしていかなければなりません。福地金属でいえば、単純作業の中に「やりがい」を見つけて、社員と一緒に考え前に進める社風を作ることが大事だと気づくのに10年かかりました。

### ●儲けの秘訣教えてください

昨年、慰安旅行が復活しました。何が大きく変わったかと考えると、自分自身が社員を育てる覚悟ができたということです。専務という立場で現場を任されていたころは、私のやり方を何も考えずそのまま真似てほしい。そうすると失敗するリスクが極めて少なく効率がいいと考えていました。しかし、社員が30才になった時に、会社がなくなるとなれば申し訳ない。じゃ、どんな会社にならなければならないか？社員たちが自ら考える組織を作らなければ生き残れないと考えました。そう考えて、まじめに頑張ればうちの会社がなくなるはずはないと。私たちは大企業のように大量生産による低価格化はできないけれども、小ロット、短納期の市場なら強みを発揮できます。また、お客さんの手間を省くために冷間鍛造以外の加工も受けて外部に協力してもらい納品することも可能です。展示会とホームページでアピールすることにも力を注いでいます。「以前の展示会でお見かけしました。こんな加工できますか」と声がかかることもしばしばあります。社員全員が誰にでも気持ちよく接することができるように心がけていたら、売上向上につながっていくはずですよ。そう信じて日々の労働に励んでいます。

今ではお客さんとの打ち合わせに社員も参加してもらい、お客さんの相談に対して一緒に考えてもらうようにしています。そうすると、失敗もしますが、社員が自分の考えで創意工夫すると、今までよりいい商品の提案ができたり、作業効率のよい方法も見つけることができるようになりました。

### ●自社の存在価値を持つために

仕事がいつなくなるかもしれない、他社がもっと高品質、安価な仕事をすることによってその仕事がなくなる可能性もある、いい社員が入った、よっしゃ、仕事増やそうと思った矢先にその社員が辞めることもある、そう考えると不安で仕方がありませんでした。自分の中での計画では経営がよくなると思っていても、なかなか計画通りには進まない、いつになったら安定的な経営ができるのか、どうしたら社員が絶対にやめないのだろう、どうしたらお客さんがなくなるののだろうと考えると、そこに明確な答えがないことに気づきました。つまりお客さんや、社員の要望の変化に常に応えていかなければ、安定的な経営はできません。これは大企業でも、中小企業でも同じだと悟りました。おそらく、ここまでやったら経営は終わりなんてことはなく、ずっと、変化に対応しながら努力し続けたいといけなくなるだろうということ。社員一人ひとりが問題意識を持って商品作りに取り組みなくてはいけないと思います。そうすれば、10年後も30年後もこの会社の存在価値が生まれると信じています。



### ●取材を終えて

福地さんは同友会の学びを実践する中で失敗を繰り返し、結果を出してきました。失敗してもあきらめず、前を向いてきたのには、社員さんたちやその家族のために会社を存続させる覚悟があったからだと思います。

今回、初めて「冷間鍛造」という言葉の意味を知りましたが、日本の高度成長とともに成長した技術が現役で活躍しているのに感心しました。そして、この大切な技術を福地金属は社員さんと守って次の時代に継承するのだろうということを確信しました。町工場の魂に触れる取材でした。ありがとうございます。

取材／情報部・広報部 荒田・大山



工場内



ISO 9392



プレスロボット

### Profile

企業名： 福地金属株式会社

所 在： 大阪市平野区加美北

設 立： 昭和42年4月

資 本 金： 1,000万円

社 員 数： 15名

事業内容： 金属の冷間鍛造